

<ルール改正講習会について>

2019年2月1日

精華ゴルフセンターレインボー

先般、開催致しましたルール変更講習会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。

その際、出席者の方から頂きましたご質問に、この場で回答をさせていただきます。

回答につきましては、「R&A・USGAゴルフ規則」及び「R&A・USGAゴルフ規則プレーヤーズ版」に則って、なるべく原文に忠実に関連規則を記載させていただきました。

分かりにくい点や、さらに規則書をひも解く必要のある点もあろうと思いますが、この場では以下の回答でご容赦下さいますようお願い致します。

尚、上記2冊の規則書はJGAホームページに全文が掲載されています。さらに詳しくお調べになる方は、そちらをご参照下さい。

(Q) ルール上、キャディーバッグに入れることのできるクラブは14本となっていますが、練習用のクラブを入れておくことはできますか？

(A) ゴルフ規則 4.3a (6)

認められる

一般的なストレッチ（練習スイングを行う場合を除く）のための器具を使用すること。

その器具がデザインされている目的が、ストレッチのためなのか、ゴルフのときに使用するため（例えば、肩に沿って乗せられるアラインメント棒）なのか、またはゴルフに関連しない目的のため（例えばゴムチューブやパイプの切れ端）なのかは関係ない。

認められない

いかなる種類のゴルフトレーニング補助器具、スイング補助器具（例えば、アラインメント棒、加重ヘッドカバー、ドーナツ型重り）、不適合クラブで練習スイングを行ってはならない。

また、これらの器具を、プレーヤーがストロークのための準備やストロークを行うときにプレーヤーを支援することにより潜在的な利益を生じさせる別の方法で使用してはならない。（例えば、スイングプレーン、グリップ、アラインメント、球の位置、姿勢の支援）。

前記の器具の使用の更なるガイダンスと他の種類の器具（例えば、服装と靴）は用具規則で閲覧できる。

特定の 방법으로器具を使用することができるかどうかについて疑問のあるプレーヤーは委員会に裁定を求めるべきである（規則 20.2b 参照）

(Q) ジェネラルエリアにおいて、自らの球が地面にくいこんだことを確認するために拾い上げた場合の処置について。

(A) ・ ゴルフ規則プレーヤーズ版 規則 16.3b

プレーヤーの球がジェネラルエリアにくい込んでいる場合、そのプレーヤーは図 16.3b に示されている通りに、元の球か別の球をドロップすることにより罰なしの救済を受けることができます。

・ ゴルフ規則プレーヤーズ版 規則 16.4

プレーヤーが自分の球は規則に基づいて罰なしの救済が認められる状態にあると合理的に考えているが、その球を拾い上げずにその状態を決定することができない場合、そのプレーヤーは救済が認められるのかどうかを確かめるためにその球をマークして拾い上げることができます。拾い上げた球をふいてはいけません。

(Q) グリーン上において、グリーン上においた自分のクラブにボールが当たった場合の処置。

(A) ゴルフ規則 11.1b 例外 2

パッティンググリーンからプレーされた球が偶然にパッティンググリーン上の人、動物、動かせる障害物（動いている別の球を含む）に当たった場合：そのストロークはカウントせず、元の箇所（分からない場合は推定しなければならない）に元の球か別の球をリプレースしなければならない。

(Q) 肩の高さからドロップし、誤ってそのまま打ってしまった場合の処置について。

(A) ゴルフ規則 14.3b (3)

球は、救済エリアにドロップしなければならない。プレーヤーはその球をドロップするとき、その救済エリアの中または外に立つことができる。

上記 (1) ~ (3) の要件のどれかに違反して間違った方法でドロップした場合：

- ・ プレーヤーは正しい方法で再びドロップしなければならないが、プレーヤーがそうしなければならない回数に制限はない。
- ・ 間違った方法でドロップした球は、規則 14.3c (2) に基づいてプレースしなければならない前に行う 2 回のドロップにはカウントしない。

プレーヤーが再びドロップをせずに、その代わりに間違った方法でドロップした球が止まった場所からストロークを行った場合：

- ・ その球を救済エリアからプレーした場合、プレーヤーは 1 罰打を受ける。（しかし、規則 14.7a に基づく誤所からのプレーはしていない場合）。
- ・ しかし、球を救済エリアの外からプレーした、またはドロップしなければならないのにプレースした後にプレーした場合（どこからプレーしたかにかかわらず）、プレーヤーは一般の罰を受ける。

以上